ねりまの文化財

練馬区教育委員会
社会教育課
(文化財保護係)
☎3993-1111 内線 2766
〒176 練馬区豊玉北6-12-1

秋の文化財事業のご案内

わがまち再発見 10/27

―下練馬宿から田柄用水を歩く―

当時の面影を残す旧川越街道の宿場町から田柄川緑道を通り、城北中央公園内にある栗原遺跡を経て、氷川神社までの約3.5kmのコースを2班に分かれて文化財を巡ります。

▽日　時　10月27日(日)午前9時～12時
(雨天決行)

▽集合場所　北町あおば公園(北町2丁目41番、東武練馬駅より徒歩2分)

▽参加方法　当日現地受付(午前8時45分～9時15分)

東本村申庚塔

▽参加費用　1人50円(保険料)

▽講　師　郷土史研究家　林　勇氏
郷土史研究家　亀井邦彦氏

◎詳しくは区報10月21日号をご覧下さい。

秋の文化財講座
『北武蔵の古墳と豪族』

北武蔵地域(荒川流域)の古墳分布を通じて、往時の豪族の存在を知ると共に、古墳の・出土品から生活文化を学びます。

この機会に古墳への理解を深めてみませんか。

▽日時　11月12日(火)午後練馬公民館で講義
11月13日(水)埼玉県立さきたま資料館・さきたま古墳群見学

▽講師　埼玉県立さきたま資料館学芸員(講義―若松良一氏・見学―大和修氏・石川博行氏)

◎申し込みは往復ハガキで。詳しくは、区報10月21日号をご覧下さい。

第3回 文化財クイズウォークラリー in石神井公園

教育委員会では、幅広い年齢層の区民を対象に、文化財への関心を高め、文化財保護意識の涵養を図るため「クイズ　ウォークラリー」を実施します。その際、公園内の樹木等自然の大切さを理解し、自然に溶け込んだ歴史を体験してもらうことを考えています。

▽日　時　平成3年11月17日(日)午前10時～12時(雨天決行)

▽集合場所　石神井公園野外ステージ前
(西武池袋線石神井公園駅より徒歩10分)

▽参加方法　当日現地にて受付(午前9時30分～10時)

▽参加費用　1人50円(保険料)

▽会　場　石神井公園・三宝寺池周辺で約2時間程度の散策コースを設定します。(記念品を用意しています)

▽対象人員　150名(50組)を予定

▽主催　練馬区教育委員会社会教育課

▽協力　東京都石神井公園管理所

◎詳しくは区報11月1日号をご覧下さい。

三の酉にはなぜ火事が多い？

――練馬大鳥神社と酉の市――

文化財保護推進員　伊藤　経一

練馬大鳥神社（豊玉北5―18）の由緒書によると、「江戸時代の初め正保2年（一六四五）、この地中新井村に三羽の鶴が飛来しました。その鶴を瑞祥としていつまでも厚く保護しました。のちに鶴の霊を祀り、和泉国一宮大鳥神社（堺市）の祭神天日鷲命の御分神を勧請したといいます。

以来近郷の崇敬篤く、特に11月酉の日の祭礼は、福徳円満、開運熊手を購う群衆で賑わいます。」とある。

この酉の市で最も知られているのは、台東区千束の鷲神社である。しかしはじめは、江戸近郊の葛西花又村（足立区花畑）の大鷲神社で、酉の日を祭りと定め、農民たちが生きたままの鶏を奉納したという。その後、市も立つようになり、「酉の市」または「酉の待」と呼ばれ、そこで農具を売ったところ、水商売の人々の間に、金銀をかき集める縁起に関係づけて熊手が人気を博し、酉の市と熊手との結びつきがはじまったという。そのため江戸市民の参詣も多くなり、江戸から花畑へ行くには舟を利用した。ところがその舟の中でさかんに賭事をやっていたことがわかり、安永5年（一七七六）に幕府から、この舟の中の賭事を厳禁すると命じられたので、花畑のお酉様はさびれたといわれる。

花畑の次に繁昌したのは浅草タンボ即ち台東区千束（竜泉寺町）の鷲神社である。ここは新吉原の裏にあって、吉原に出入する人々や、市中の人たちが多く参詣するので賑わった。（『角川日本地名大辞典東京都』・『平凡社大百科事典』・練馬郷土史研究59号所収、三輪善之助「お酉さま」）

明治以後は千束の鷲神社の他に、深川富岡八幡と新宿花園神社の酉の市が賑わったが、何れも盛り場に近い事が特徴である。

練馬大鳥神社の酉の市は、いつ頃から行われたかは明らかでないが、由緒書にもある通り、農村の人たちの崇敬の篤かったことはたしかである。娯楽の少なかった当時、村の人たちにとって酉の市は、楽しみな祭りの一つであったと思われる。

今年の酉の市は、11日と23日の二の酉までである。三の酉までである年は火事が多いといわれている。その理由についていろいろの事典を調べてみたが、どれも俗説であるとしか述べられていない。むかしは、地震、雷、火事、親父は怖いものとされていた。その中でも火事は最も怖い出来事なのである。三の酉は、いわば「火の用心」のためのいましめとしているとみるべきであろう。

平成2年度　刊行物売上げベスト10

（社会教育課・郷土資料室）

順位	書籍名	金額	冊数	昨年度順位
1	練馬の富士塚	100円	80冊	16
2	練馬を往く	200	75	1
3	練馬の寺院Ⅰ　改訂版	100	62	3
4	練馬の神社　改訂版	100	57	2
5	練馬の寺院Ⅱ　改訂版	100	56	4
6	練馬の石造物―神社総集編―	1100	53	新
7	ねりまの昔ばなし	800	47	6
8	古老聞書	200	46	14
9	練馬を開いた人々	150	34	12
10	練馬の民家と屋敷森	150	28	9

地名は大切な文化遺産

文化財保護推進員　桑島　新一

全国に石神（いしかみ・いしがみ）という地名はたくさんあります。しかし「石神井（シャクジー）」とよぶのはここきりありません。ちなみに「練馬」という地名も全国唯一です。

石神井の地名の起こりは、石神井神社の御神体「石神様」に由来すると伝えられます。その石神様はすぐ近くの「石神の井戸」（石神井町4―26）から出現したといいます。

むかし神社の境内に隣接する農家の敷地内にあった井戸は、今は住宅街の真ん中になっています。地元の人たちは、井戸の上屋を建てたり、周りを整備したり、心を込めて井戸を守っています。

石神井の地名の語源を知っている人は大勢いますが、この井戸のことを知っている人は多くありません。文化財保護推進員の林勇氏は、区民の方々にこのことを知ってもらい、より良い環境で保存保護が出来るよう地元の人たちと共にうったえています。

石神井の地名が初めて歴史の上に記されるのは、今から五百年以上遡ります。それほど遠い祖先から受継いだ地名と遺跡なのです。

笹目通り（オリンピック道路）は石神井川を長光寺橋で渡ります。橋の北詰に区立長光寺橋公園があります。

長光寺とは昔の地名で、いま近くに長光寺というお寺があるわけではありません。昭和七年まであった旧田中村の小字名です。

江戸時代の地誌にも明治時代の記録にも、長光寺という名のお寺のことは書いてありません。チョウコウジは仮に漢字を当てただけで、実は違う意味がある地名ではないだろうか、という意見さえありました。

ところが最近、文化財保護推進員の岩崎美智子氏の調査で、長光寺というお寺が実在したことが判りました。本堂や、墓地の在った場所も、はっきりしました。何かの原因で、幕末か明治初年に廃寺となったそうです。お寺の名をとって村の小字にしていたのです。

これなども地名が残っていたからこそ、隠れた歴史の一端がうかがえるいい例です。

地名は故意に無くしさえしなければ、永久に残るはずです。地名は貴重な文化遺産です。区内の古い地名や由来を記録し、保存していきたいと思います。

郷土資料室収蔵品シリーズ　第9回

回転式ハエトリ器

ハエ駆除には、蠅叩き、蠅取り紙など、様様なものが考案されている。

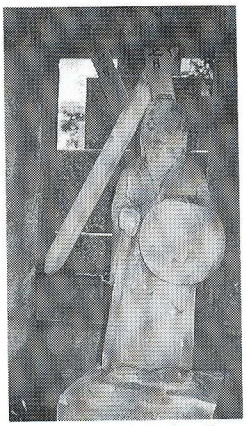
ここに紹介するのは、「回転式ハエとり器」である。ネジをまくと、茶筒ぐらいの大きさをした円筒がゆっくり回り出す。この筒にハエの好物を塗っておくと飛んできてとまるが、ハエは円筒が回っていることを知らない。夢中で食べているうちに筒が回って下向きになり、捕虫箱に落ちてしまうという仕掛けである。

動く仕組みは、ゼンマイ時計と同じでなかなか精巧にできている。筒に砂糖と酢をまぜて塗っておくと、よくハエがとれたという。ネジは1回まくと3時間はもつ。本室収蔵品のなかでも、遊び心の感じられる微笑ましい生活用具である。

ある石仏の話

関町北4丁目、日蓮宗法耀山本立寺の山門を入ると参道左側に、数基の石仏が並んでいる。一番手前の石仏は像高60cm程の行者像で、「てんばの吉」と呼ばれている。この像の経緯を次の様にご住職及び、熱心に石仏調査をした檀家の荒幡氏から聞いておりますのでお話し致します。

明治の初め頃、関村の附近に吉五郎と言う人が居りました。住んでいる家は青梅街道筋の出店（上石神井村）あたりという人もあれば、竹下だったという人も居り、はっきりしたことはわからない。又何をしている人かも誰一人知っている者はいない。物もらいだったという人も又易を見る人だったとも古老はいう。姿を見ると60才位に見え、髷に結んで福々しい顔をして何時もニコニコしていた。



「てんばの吉」像

毎日のように寺にも顔を見せていた。吉五郎は子供が大好きで幼い子供を特に可愛いがり何れの子供も別け隔てなく愛していた。弱い子供は吉五郎に抱かれると何時の間にか丈夫に育つという。そのことがいつのまにか世間に広まり、身体の弱い子供を持つ親や、乳児の親からも、子供を抱いてもらいたいと思っている人が多かった。吉五郎に抱かれた子供は誰れも丈夫に育っていった。俗名子育吉五郎は村人から鬼子母神の様に尊められた。

子育吉五郎は明治21年1月5日死去した。ある檀徒の方が願主となって本立寺旧本堂西側の鬼子母神堂前に石像を建て供養した。

昭和41年本堂建て替えの頃鬼子母神堂が取りこわされ石像は本堂前に移されたが、その後現在地に移転、今でも山門を入って参詣に来る子供達を、丈夫に育つ様静かに見守っている様に思われます。

文化財保護推進員　井口　敏

長命寺への道

江戸時代中期以後、弘法大師霊場御府内八十八箇所巡りが庶民の間で信仰と行楽を兼ねて盛んに行われました。練馬区には八十八箇所のうち南蔵院、長命寺、三宝寺があります。南蔵院から長命寺へ向う道には昔からの道が残っている所がありますので、その道を紹介します。

富士見台駅南口の前を通っている道を西に向かい、工進精工所の踏切で北に渡ります。二又で左の線路に沿った道をとります。左手に見えるガードから100メートル程西方に、昔は踏切があって斜めに南に渡っていましたが、今は踏切がないので次の踏切を渡ります。商店街を下り、石神井農協富士見台支店の手前で右に曲ります。西武線高架をくぐり、多少左にカーブしている道を進みます。稲荷神社の角で左に曲ります。右角には宝永6年（一七〇九）に建てられた庚申塔があります。神社の角に長命寺への石の道標が以前はあったそうです。石神井川を富士見橋で渡ります。十字路を右に曲り、区立石神井東中学校の東側を通り、校地の角を左に曲ります。坂を上ると正面を横切る笹目通りの向うに長命寺の東門があります。

昭和20年代まで、この道を通る遍路の人々を見かけたそうです。現在まで残されてきた古道を、昔に思いを馳せながら歩いてみるのも一興かと思います。

文化財保護推進員　岩崎　美智子